

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（6）

－ 企業向け貸出の推進動向 －

ポイント

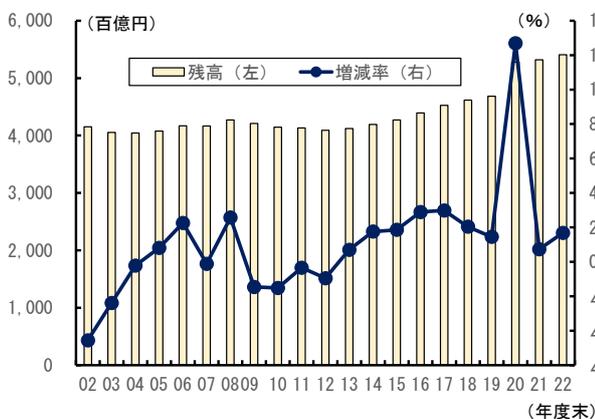
- 2022 年度末の信用金庫の企業向け貸出金残高は、ゼロゼロ融資急増後の反動でペースは鈍化したものの、前期比 1.6%、8,953 億円増加の 54 兆 547 億円となった。
- 2023 年度以降の残高伸び悩みが懸念されるなか、取引深耕よりも営業エリアの拡大や不動産業向け貸出の強化に力を入れる信用金庫が増えつつある。
- 推進時の検討課題は、ボリューム重視から収益重視への意識改革であり、新規開拓と取引深耕のバランスについても十分な議論が求められる。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、①営業エリアの拡大、②不動産業向け貸出の推進、③取引深耕・本業支援の強化に取り組む信用金庫がみられた。

(注) 本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2023 年度）」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

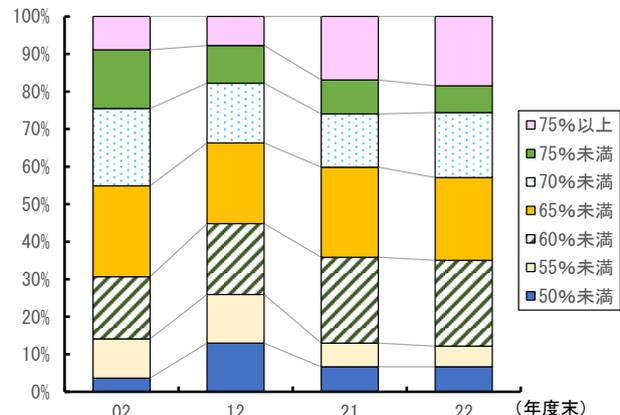
1. 企業向け貸出金残高の推移

2022 年度末の信用金庫の企業向け貸出金残高は、前期比 1.6%、8,953 億円増加の 54 兆 547 億円となり、過去最高を更新した（図表 1）。企業向け貸出金残高は、2020 年度のゼロゼロ融資急増後の反動でペースは鈍化したものの、10 年連続で前年度末を上回って推移している。また 2022 年度末の貸出金残高に占める企業向け貸出比率は 67.7%に達し、7 年連続で前年度末から上昇した。なお 2022 年度末の信用金庫別の比率構成比は、①60%未満が 90 金庫（構成比 35.4%）、②60%以上 70%未満が 99 金庫（同 38.9%）、③70%以上は 65 金庫（同 25.5%）となった（図表 2）。

（図表 1）企業向け貸出金残高の推移



（図表 2）信用金庫別の企業向け貸出比率（構成比）



(備考) 1. 本稿では他業態との合併等を考慮していない。

2. 図表 1 から 3 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 主な推進策

企業向け貸出の推進策として、営業エリアの拡大や新店舗出店を通じた新規開拓の強化に乗り出す信用金庫がみられる。また営業エリア拡大の有無に拘わらず不動産業向け貸出に力を入れる信用金庫は多い。一方、新規開拓の強化ではなく、取引深耕および取引先本業支援の強化による与信管理に力を入れる信用金庫も一定数あった。

3. 推進時の留意点

推進時の検討課題は、経営陣を含めたボリューム重視から収益重視への意識改革であり、低金利による量の積上げには慎重な検討が求められる。また新規開拓と取引深耕のバランスについて推進スタンスを明確にする必要があり、営業店目標などに反映させていくことが不可欠とされる。特に内製で取引先本業支援に力を入れるなら、本業支援手数料の徴求についても検討の余地が大きいと考えられる。

4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表3のとおりである¹。

(図表3) 企業向け貸出に関する主なコメント（ゼロゼロ融資の返済対応を抜粋）

- 今年度はゼロゼロ融資先に対する条件変更やリファイナンスの提案に力を入れており、返済に伴う企業向け貸出の落込みを抑える方針である。
- 当金庫はゼロゼロ融資で新規先を増やすことに成功した。そこで現在は本業支援を通じて新規先の取引深耕に力を入れている。
- 当金庫はゼロゼロ融資で出遅れたものの、昨年来、競合金融機関のゼロゼロ融資先に対する肩代わり攻勢で残高を確保している。
- ゼロゼロ融資の返済増より融資先の経営悪化に伴う条件変更などが心配されるので、当金庫はこれまで以上に取引先本業支援に力を入れる。
- ゼロゼロ融資の返済増より融資先の経営悪化に伴う条件変更などが心配されるので、当金庫は営業エリアを拡大し新規開拓をもう一段強化する考えである。
- 当金庫の地域はゼロゼロ融資の利率が低く、貸出金利回りの低下要因になっていた。顧客はゼロゼロ融資の返済よりプロパー融資の返済を優先してくるため、なかなか貸出金利回りの改善に結び付かない。
- 当金庫はゼロゼロ融資に力を入れる一方で、地公体向け貸出の抑制などのポートフォリオ改革に取り組んだ。今後、ゼロゼロ融資の返済が本格化しても、地公体向け貸出に再注力せず現在のポートフォリオ改革を続けていきたい。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある（信用金庫名の照会や関連資料の提供依頼にはお応えしていません）。